

【プロダクト工学科・工業科目】

各教科・科目	学 年 類 型 必履修・選択	標準 単位 数	1年次(令和6年度入学生)			2年次(令和5年度入学生)			3年次(令和4年度入学生)		
			必履修	学校必履修	自由選択	必履修	学校必履修	自由選択	必履修	学校必履修	自由選択
			工業	工業技術基礎	3~4		4 (3)				
課題研究	3~4								3 (3)		
機械実習	6~12						4 (3)				4 (3)
機械製図	2~8			2 (2)			3 (2)				2 (2)
工業情報数理	2~4			3 (2)				1 (1) ①			
機械工作	4~8						2 (1)			2 (1)	
機械設計	4~8						2 (1)			2 (1)	
原 動 機	2~4										2 (1)
通 信 技 術	2~6							2 (1) ※○			2 (1)
ハードウェア技術	2~8							2 (1) ※○			2 (1)
デザイン史	2~4										2 (0)
加工技術応用	2							2 (1) ※			2 (0) ※
労働と安全	2							2 (1)			
プロダクトCAD演習	2							2 (1)			
3D CAD演習	2										2 (0)
自動車に関わる法令	2										2 (0)
基礎自動車工学	2										2 (1)
屋内配線施工技術応用	2							2 (1) ※○			2 (2) ※○
基本情報処理技術	2							2 (1)			2 (1)
電子工作演習	2							2 (1) ※○			2 (2) ※○
色 彩 演 習	2						2 (2)			2 (1)	
デ ッ サ ン	2						2 (1)			2 (1)	
グラフィックデザイン実習	2						2 (2)				
専門教科・科目単位数計			9			12~18			15~25		
総合的な探究の時間			0			0			0		
ホームルーム活動			1			1			1		
生徒一人当たりの履修単位数計			34~39			29~35			24~44		

【工学科・令和6年度入学生の習熟度別授業・少人数指導授業等】

<p>習熟度別授業</p>	<p>(1) 数学Ⅰ(4単位)は1学級2展開 (2) 英語コミュニケーションⅠ(1年次3単位)英語コミュニケーションⅡ(2年次2単位、3年次2単位)は1学級2展開</p>
<p>少人数指導授業</p>	<p>(1) 言語文化(2単位)は1クラス2展開で実施。 (2) 体育(1年次:3単位、2年次:2単位、3年次:2単位) 1年次:1クラス2展開 2年次:1クラス2展開 3年次:工業科とデュアルシステム科を併せて、2クラス3展開×2+1クラス展開×2=8講座 (3) 「働くこと生きること(1単位)」は、ティームティーチング。 (4) 工業:工業技術基礎(4単位)、課題研究(3単位)及び実習科目は、1クラス3~5展開 工業情報数理(2単位(プロダクトのみ3単位))、機械製図(2~3単位)、自動車製図(2単位) 2、3年次の学校必修履修の自動車工学(2単位)、 電気回路(1年3単位)、電気製図(2単位)、電子回路(2単位)、 デザイン製図(2単位)、デザイン実践(2年2単位及び3年2単位)、 デザイン材料(2年2単位及び3年2単位)、は1クラス2展開</p>
<p>備考</p>	<p>(1) 1単位時間は45分とする。 (2) 卒業認定修得単位数は、74単位である。 (3) 2年次より次の「科目群(履修パターン)」のいずれかを選択する。 ①プロダクト工学、②自動車整備、③自動車製作、④電気システム、⑤コンピュータシステム、 ⑥ビジュアルデザイン、⑦プロダクトデザイン (講座数)の右①~⑦は、それぞれの履修パターン別科目であることを指す。 (4) 「情報Ⅰ」(2単位)は、1年「工業情報数理」(2単位)によって代替履修する。 (5) 「総合的な探究の時間」(3単位)、3年「課題研究」(3単位)によって代替履修する。 (6) ○は2・3年次同時履修。 (7) ※は履修機会が1度の科目。 (8) ★は在京外国人等対象生徒教科科目。週時程外の放課後に設置する。 (9) 論理国語と英語コミュニケーションⅡは2年次(2単位)及び3年次(2単位)の4単位の学習をもって、科目の履修となる。 (10) 論理国語は現代の国語及び言語文化を履修した後に履修させる。 (11) 日本史探求及び世界史探求は歴史総合を履修した後に履修させる。 (12) 倫理及び政治経済は公共を履修した後に履修させる。 (13) 数学Ⅱと数学Ⅲを履修する場合は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲの順に履修させる。 (14) 数学Aを履修する場合は、数学Ⅰと並行してあるいは数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (15) 数学Bを履修する場合は、数学Ⅰを履修した後に履修させる。 (16) 物理、化学については、それぞれに対応する基礎を付した科目を履修した後に履修させる。 (17) 芸術科目については、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目を履修した後に履修させる。Ⅲを付した科 (18) 外国語の科目において、Ⅱを付した科目はそれぞれに対応するⅠを付した科目の履修後に履修させる。 (19) 日本語理解については、1年次の修得者に対して日本語検定3級取得には1単位、2級以上取得には2単位の増加単位修得を卒業時に認める。 (20) 特別の教育課程(日本語指導)は指導の対象の生徒のみ実施する。 (21) 自立活動は、通級による指導の対象生徒のみ実施する。 (22) 東京都立工芸高等学校において拠点校実習を実施(ホームページデザイン・インテリア・铸造について、年間で4時間)。</p>